



Product Reviews

photo: Tsushima Takao

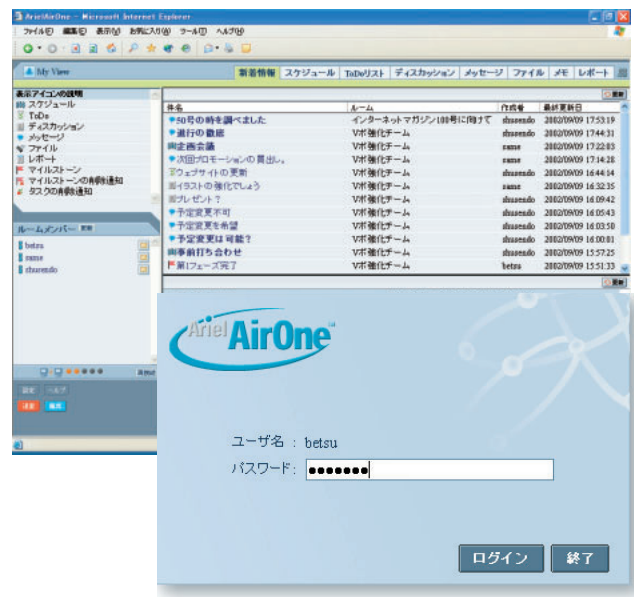


日本製で初の本格派 P2P コラボレーションツール

ArielAirOne

おすすめ度 ●●○○○ P2Pコラボレーションツール

発売元	アリエル・ネットワーク株式会社
発売日 / 価格	9月18日 / 1ライセンス9,800円(11月未まで7,800円)
対応OS	ウィンドウズME/2000/XP、GNU/Linux
対応ブラウザ	インターネットエクスプローラ5.0以降、ネットスケープ6.2以降、Mozilla1.0以降
推奨利用環境	ペンティアム700MHz以上、メモリ128MB以上、インターネット常時接続
参考URL	www.ariel-networks.com
問い合わせ先	営業部 03-5725-9201



P2Pコラボレーションツールといえば、その代表格に米国 Groove Networksの「Groove Workspace」がある。一部の文字化けを除けば日本語が扱えるので使ってみたくとも、メニューなどがすべて英語なので躊躇した人もいだろう。そんな人にオススメしたいのが、純日本産で初めてのP2Pコラボレーションツール「ArielAirOne」だ。Grooveの開発者であるレイ・オジー氏はロータスノーツの生みの親として知られ、アリエル社長の栗村信一郎氏もロータス日本法人でノーツ開発の陣頭指揮をとっていたせいか、両ツールのコンセプトは非常に似ている。

ArielAirOneを利用するには、まずインストール

後の初期設定を慎重に行ってほしい。手順を追うと、ユーザー情報を登録する場面がある。ユーザー名とメールアドレス、パスワード、任意でプロフィールを入力するが、ユーザー名とメールアドレスだけは、後から変更することができない。ArielAirOneのライセンスは、1ユーザーIDに対して1ライセンスとなっている。そのため、1人のユーザーが1ライセンス購入すれば、デスクトップPCとノートPCにそれぞれにインストールして利用することも可能になっている。メールアドレスをIDとして認証する仕組みなので、入力ミスをした場合は、そのままずっと使い続けなければならないのだ。実際に私は試用する際に、入力ミスしてしまった。

第三者による二重登録をできないようにするなど「セキュリティの関係で変更できない仕様にした」と言うが、プロバイダーを変更したり、部署の移転や会社を転職したりして、自分の登録したメールアドレスが変わること、替えたいことはあるはずだ。もし、間違って入力した場合はサポートに連絡して対処してもらえない。この点は、今後変更ツールをリリースすることも検討するとしている。

動作はGrooveよりも軽快だ。Grooveでは、メンバーと共有作業する「シェアドスペース」をまず作成する。ArielAirOneではこれを「ルーム」と呼ぶ。作成するときにはユーザー情報の時と同様に、ルーム名の変更はできないので注

日米P2Pコラボレーションツールの共通点とグループウェアの差

製品名と通信形態	ArielAirOne (P2P、端末個々が通信)	Groove (P2P、端末個々が通信)	グループウェア (クライアントサーバー型)
企業や組織を越えた運用	可能	可能	困難 (サーバーの位置に依存)
オフライン利用	可能 (データを各端末に保存)	可能 (データを各端末に保存)	困難 (データをサーバーに保存)
導入コスト	小 (サーバー不要)	小 (サーバー不要)	大 (サーバーが必要)
管理コスト	小 (クライアントソフトのみ)	小 (クライアントソフトのみ)	大 (サーバーの管理が必要)
特徴	動的な情報共有に注力	リアルタイム機能に注力	静的な情報共有に注力
ユーザーインターフェイス	ブラウザ	独自ソフトウェア	独自ソフト(ノーツなど) ブラウザ(サイボウズなど)
アプリケーション容量	9Mバイト程度	73Mバイト	グループウェアによって異なる
対応ブラウザ	インターネットエクスプローラ ネットスケープ、Mozilla	インターネットエクスプローラ (オプション的に利用)	グループウェアによって異なる
基本言語	日本語	英語	グループウェアによって異なる

意しなければならないが、ルーム自体の削除は可能だ。ルームで使えるアプリケーション機能は「スケジュール」や「ToDoリスト」、簡単に送信できる「メッセージ」、書き込んだ意見などがツリー表示される「ディスカッション」、メンバー間で共有する「ファイル」、アイデアなどを一時的に保存しておく「メモ」、議事録など定型フォーマットを使う「レポート」、作業の進行状況などを共有できる「プロジェクト」がある。機能が豊富なGrooveに対して、必要な機能に絞られた感がある。

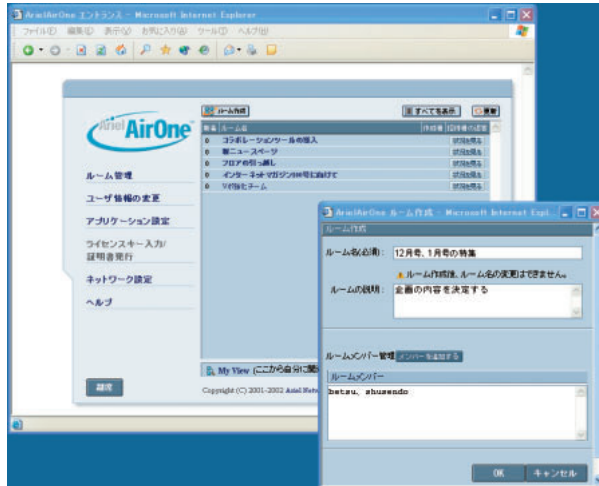
受信メッセージやメモの内容は、スケジュールやToDoリストに変換できるので便利だ。しかし、使っているとどの機能も同じようなデザインのためか、いま何の作業を行ってどこに反映されたのかわからなくなることがある。操作も慣れるまでに時間がかかった。また、純粋なP2Pなので相手がオフラインの場合は同期がとれない(情報が更新されない)のはあたりまえだが、オンライン同士であっても同期に非常に時間がかかる場合が多く、リアルタイム性はGrooveのほうが優れている。

今回試用したのは、製品版の発売直前にリリースされたベータバージョン2だ。製品発売後は、データのエクスポートやメンバーによるファイルの同時編集など、使い勝手を中心にユーザーの意見を反映したバージョンアップを早期に行う構え。ベータテスト中もユーザーからの意見をできる限り反映できるように、ぎりぎりまで開発を進めていた。生まれたばかりの製品だが、今後に十分期待がもてる。ウェブサイトからダウンロードすれば、製品版を機能に制限がなく無料で30日間利用できるの、ぜひ自分の目でも評価してほしい。(編集部)



【編集部のボヤキ】

リアルタイム性を追求してないとしても、メンバー同士のメッセージのやり取りや、ファイルの同期が遅すぎる。操作を覚えるのにも時間がかかりそうだ。



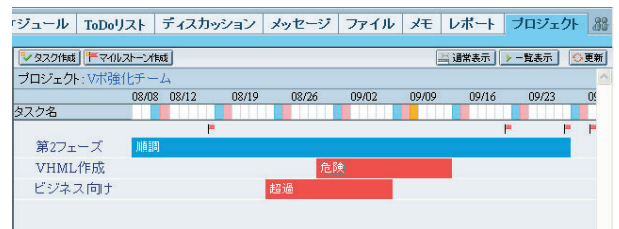
最初に起動すると、ルーム名や新着情報はなにも表示されないで空欄になっていて寂しい。このままでは誰の端末とも接続されていないので、まずはルームを作成してから仲間を招待しよう。招待はメールアドレスで行い、AirOneユーザーには初期画面に通知される。



「スケジュール」はメンバー全員の予定が一览できる。個人的な予定を非公開にすることも可能だ。自分に関係のある情報だけがまとめて表示される。「My view」(左ページの画面のように線のラインが入る)のスケジュールでは、自分の予定だけが月間表示される。



「プロジェクト」のタスクでは、ルームの管理者がメンバーに指示した作業内容が表示される。その内容は、担当者のToDoに自動反映される。マイルストーンは、ルームメンバーに共通のスケジュールとして扱われ、自動的に各メンバーのスケジュールに表示される。グラフで進行状況を確認することも可能だ(下図)。



133万画素の静止画が撮れて テレビ電話や遠隔操作もできる

キヤノンデジタルビデオカメラ IXY DV M

おすすめ度 ●●●○○○

ビデオカメラ

発売元	キヤノン株式会社
発売日/価格	9月上旬/オープン価格(アクセサリキットと合わせて実売価格は約11万円台~12万円台)
サイズ/重量	60(W)×119(H)×118(D)mm / バッテリーなど含んで約635グラム
撮像素子	1/4型インターレースCCD(総画素数は約133万、有効画素数はテープ記録時約69万、カード記録時約123万)
静止画記録画素数	1280×960画素(SXGA) 640×480画素(VGA)
記録メディア	SDメモリーカードまたはマルチメディアカード、MiniDVテープ
連続撮影時間	ビューファインダー使用時約135分、液晶モニター使用時約110分(アクセサリキット内包/バッテリー-BP-511)
参考URL	www.canon-sales.co.jp/dv/
問い合わせ先	お客様相談センター 0570-01-9000



デジタルビデオ(DV)カメラが静止画にも力を入れてきている中、高画質で撮影できることをウリ文句に登場したのが「キヤノンデジタルビデオカメラ IXY DV M」だ。

DVが静止画に力を入れているといっても、いまだに100万画素程度のCCDを搭載しているモデルが多い。その反面、デジタルカメラは400万画素以上のCCDを搭載したモデルが一般ユーザーの手に届く価格にまでなっている。また動画にも力を入れてきており、両者は日に日に競合関係を強めている。画素数については「CCDの能力的な数字を表しており、実際に記

録される画素数とは異なる」という批判もあるが、静止画ではいまのところ圧倒的にデジタルカメラに軍配が上がる。しかし、動画の記録時間や光学式のズーム倍率ではDVの圧勝だ。

IXY DV Mは、総画素数が約133万画素の1/4型CCDを備えて、カード(SDカード、マルチメディアカード)記録時の有効画素数は約123万画素(テープ記録時は69万画素)と、デジタルカメラに比べれば見劣りするが、普及型DVカメラの中では高い。5月下旬に発売された前モデル「IXY DV 3」も静止画をウリにしていたが、CCDの有効画素数はカード記録時で約63万画

素と、画素数だけを見れば約倍増している。

実際の撮影は画素数だけで決まるものではない。たとえば、オリンパスのデジタルカメラ「CAMEDIA Ultra Zoom」シリーズは、コンパクトサイズながら光学式で8~10倍のズームを搭載していることが目玉で、最新のC-730は320万画素となっている。しかし、手ぶれ補正機能がないので実際に最大ズームで寄って撮影すると、画像がぶれて失敗するケースが多い。IXY DV Mは光学式手ぶれ補正機能があるのでそうした失敗は少ない。さらに、前モデルIXY DV 3にはなかったストロボが内蔵され



IXY DV 3



IXY DV M



① 固定ファインダー ② 液晶画面 ③ メモリーカードスロット ④ バッテリーパック ⑤ 電源スイッチ、スタート・ストップボタン ⑥ メニューボタン ⑦ 選択・操作ボタン ⑧ DVテープ・メモリーカード切り替えボタン

たので、暗い場所での撮影も可能になった。実際に静止画を撮影してみると、これまでのDVカメラとは明らかに違い、にじみが少なく鮮明に写った。写真は、全自動モードで撮影したIXY DV M(左)とIXY DV 3(右)の静止画。右の写真は全体的に色がつぶれており、特に背景がぼやけている。DV Mのほうが全体的に

鮮明に写っているが、全自動モードではホワイトバランスに赤みがかかる。マニュアルに切り替えて調整が必要だろう。

静止画以外にも、IXY DV Mはインターネットに対応していることが特徴だ。別売りのアクセサリキットに付属の通信ソフト「DV Messenger」を利用すると、PCに接続したIXY

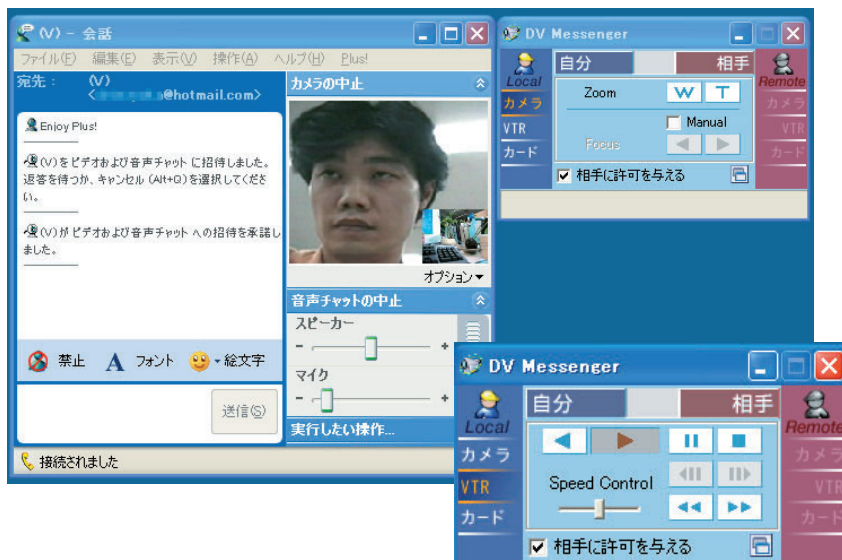
DV Mでビデオチャットや、通信相手のDVカメラのズーム操作、DVテープの再生、メモリーカードに保存されているデータの転送が行える。DV Messengerは、ウィンドウズメッセージャーのビデオチャット機能と連動する。ビデオチャットは、通信環境にもよるが10~30万画素程度のウェブカメラを使った画像よりも格段にきれいだった。しかし、PCを操作しながら自分の顔が写るようにカメラを設置するのは難しい。また、カメラの操作では電源のオン、オフは行えないので、完全な遠隔操作とはいえない。さらに、相手のカメラの操作とカードからのファイル転送を行うには、いちいち手動でモード(⑧)を切り替えてもらわなければならない。このように、ネットワークの機能を使うにはいろいろと面倒なことが多い。

DV Messengerを操作するには、お互いがキヤノン製のDVカメラでなければならない(一部不可)。また、DVカメラとPCとの接続は、IEEE1394ケーブル(DV側4ピン)で行う。アクセサリキットにはメモリーカードのファイルをPCに転送するためにUSBケーブルが付属しているが、IEEEケーブルは含まれず、本体の付属品にもないので自分で別途用意しなければならない。DV Messengerのソフトウェアは、アクセサリキットに含まれるのでぜひ一緒に付けてもらいたい。

このほか、厳しい目で見ればジョグダイヤル(⑦)のクリック感がいまひとつなど、本体の操作についても不満な部分はある。しかし、実売価格は急速に下がっており、アクセサリキットとセットで11万円台もある。この価格を考えれば非常に優秀な機種だと考える。(編集部)



左がIXY DV M(1280×960ピクセル) 右がIXY DV 3(1024×768ピクセル) どちらもスーパーファインモードで撮影した。右の方がぼやけて、左の方が鮮明だが全体的に赤みがかっている。




ビデオチャットの画面。相手の画像が大きい方で、自分の画像は右下に小さく写る。相手のビデオを再生するなど、遠隔操作するときには右下のウィンドウ画面が変わる。

DV Messenger動作環境

OS	ウィンドウズXP
CPU	ペンティアム500MHz以上(800MHz以上を推奨)
メモリー	128Mバイト(256Mバイト以上を推奨)
ディスプレイ	800×600ドット ハイカラー16ビット以上
インターフェイス	OHCI対応IEEE1394
その他	ウィンドウズメッセージャーバージョン4.5以上、インターネットに接続する際にルーターを使用している場合はUPnP対応ルーター

【編集部のつぶやき】

 価格を考えれば申し分のない性能だ。静止画はホワイトバランスが気になるものの、思った以上にきれいだった。その一方で、ビデオチャットではよいアングルにカメラを置くのに困った。DV Messengerは無料でダウンロードできるが、実際に使える人は限られそうだ。

世界初の水冷ノートPC ペンティアム4を無音で冷却

日立 FLORA 270W サイレントモデル

おすすめ度 ●●●○○

A4サイズノートPC

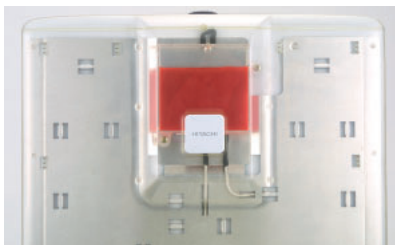


発売元	株式会社日立製作所
発売日 / 価格	9月30日 / 34万1,000円
搭載OS	ウィンドウズ2000/XP
CPU	モバイルペンティアム4(1.8ギガヘルツ)
メモリー	128Mバイト(最大512Mバイト)
表示解像度	1400 x 1050ドット
ビデオチップ	ATI MOBILITY RADEON 7500(ビデオRAM 16Mバイト)
騒音	30デシベル以下
参考URL	www.hitachi.co.jp
問い合わせ先	0120-2580-12(HCAセンター)

日立は、世界で初めて液体を使ってCPUを冷却するノートPC「FLORA 270W サイレントモデル」(FLORA 270W)を、9月30日に発売した。価格は、モバイルペンティアム4の1.8ギガヘルツ、128Mバイトメモリー、20ギガバイトのハードディスクの標準構成で34万1,000円。レビューは、液晶パネルの裏を透明にしたデモ用のモデルで行った。

本機の特徴である水冷システムは、冷却液タンクから冷えた冷却液が、CPUに密着した「水冷ジャケット」に流れ込みCPUを冷却する仕組みになっている。熱せられた冷却液は、液晶パネルの裏に配置されたパイプを循環して放熱する。液晶パネルの裏面全体を放熱板として利用する設計だ。

水冷といっても、特別なメンテナンスは不要で、冷却液は5年間補充や交換する必要がない。



液晶パネルの裏側に冷却液のタンクが配置される。写真はデモ用に液晶パネルを透明にした特別仕様で、製品版ではタンクは見えない。

い。また、液晶パネルは2万回以上開閉しても冷却液が漏れないようになっている。液晶パネル裏面の中央上部に冷却液のタンクを納めるための「盛り上がり」がある以外は、普通のノートPCと変わらない。

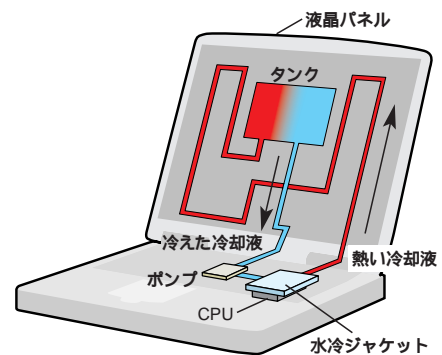
水冷システムの冷却能力を調べるため、「distributed.net」が配付するクライアントソフトを使ってCPUに負荷をかけ続ける実験を行ったが、「CPU使用率100%」の状態が2時間続いても安定して動作した。当然だが、冷却ファンの音がまったくしない。ときおりハードディスクの動作音が響く程度だ。比較のため、モバイルペンティアム4を搭載したA4サイズのノートPCにも、同様の方法でCPU負荷をかけ続けたところ、冷却ファンが動作し続けた。

次に、電源を入れたまま液晶パネルを閉じて本体を90度傾けたところ、冷却液の循環が止まってしまった。水平に設置した状態で冷却液が正常に循環するように設計されているため、液晶パネルを閉じた状態で動作させるのは避けた方が良さそうだ。

静かさや冷却性能は申し分ないが、価格が問題だ。モバイルペンティアム4の1.9ギガヘルツを搭載したA4サイズノートPCが、24万円で買えることを考えると、どうしても割高に感じてしまう。

図書館や病院、コンサートホールなど、冷却ファンの騒音が敬遠される環境で、ハイパワーなノートPCを使いたい人にお勧めしたい。

(編集部)



CPUを冷却した冷却液は、液晶パネルの裏を循環して放熱する。液晶パネルと冷却液パイプはプラスチックで隔離されているので、万が一冷却液が漏れてもショートしない。



【編集部のつぶやき】

かすかにハードディスクとポンプの動作音がするだけで、ほぼ無音と言っていい。「静かさ」に空冷ノートPCとの価格差を埋めるほどの価値を見いだせるか疑問。



USBメモリーでPCに直結 音声をMP3でステレオ録再

ディプリトーク ICR-B80RM

オススメ度 ●●●●●

ボイスレコーダー

発売元	三洋電機株式会社
発売日/価格	9月21日/2万7,000円
メモリー容量	64Mバイト
サイズ/重量	約34(W)×117(H)×24(D)/約74グラム
電源/電池持続時間	単4形アルカリ乾電池×2本/録音約6.5時間、再生約10.5時間
音声録再フォーマット	MP3形式(ロング32kbps、標準64kbps)
音声録音時間	モノラル(内蔵マイク)標準約3時間、ロング約5時間15分 ステレオ(外部マイク)標準約2時間30分、ロング約4時間
音楽再生フォーマット	MP3形式(16~192kbps)
付属品	USB延長ケーブル1本、単4形アルカリ電池2本
参考URL	www.digital-sanyo.com/sts/
問い合わせ先	三洋テクノ・サウンド株式会社 開発商品部 072-870-4186



またまた、PCに直結するUSBメモリーを使った携帯型のMP3プレイヤーが登場した。しかし、この「ディプリトーク」は単純な機種ではない。なんと、手のひらサイズのレコーダーとして音声をMP3形式で録音するうえに、外部マイクをつなげばステレオ録音も可能なのだ。ボイスレコーダーの多くは、独自ファイル形式で録音される。そのため、PCで再生するには専用のソフトウェアを使わなければならない。会議録などを他人に聞いてもらうには、このソフトをインストールしてもらうか、容量の大きいWAVE形式に変換してから渡すしかないのでとても不便だった。MP3ならウィンドウズメディアプレイヤーで再生できるので、手間がかからない。同じような機種としてオリンパスが4月に発売した「Voice-Trek DS-10」がある。標準と長時間モードで独自のDSSファイルを採用し、高音質モードではウィンドウズメディア(WMA、ビットレート32kbps)を採用した。しかし再生はすべてモノラルだ。すべてのモードでMP3形式によって、ステレオ録再まで可能にしたのはディプリトークが初めての製品となる。MP3を採用したことについて三洋テクノ・サウンドの開発商品部では、「これまでのICレコーダーは音質が悪いという意見が多かったものの、それでもニーズが高かったので売れてきた。

しかし、どうしてもその音の悪さを払拭させたかった。WMA対応はコストとの兼ね合いもあって、圧倒的に普及しているMP3のみにした」と語る。WAMは再生することもできない。では、実際の音質はどうだろうか。内蔵マイクではモノラルだが、実にきれいに聞き取れる。ステレオで録音するとさらに臨場感がプラスされた。標準モードでの録音ビットレートは、FM放送レベルといわれる約64kbpsに抑えている(再生は約192kbpsまで)。IDを使った著作権保護機能はないので自由にファイルを出し入れできるが、著作権問題を意識してコンサート会場などで音楽CD並みの録音がされないように、ある意味わざとビットレートを抑えている。それでも、実際の音が既存のICレコーダーの比ではないのがすごい。音楽はメモリー内の「MUSIC」フォルダーに、音声は「VOICE」フォルダーに保存する。フォルダー名を誤って変更、削除しても自動的に同名のフォルダーが作成されるので安心だ。再生の順番は音声優先され、音楽は転送順。唯一残念なのは操作性だ。ジョグダイヤルはクリックしづらく、ボタンロックや音楽のみのモード切り替えなどは少し面倒くさい。また、液晶にバックライトがないので、暗い場所では確認や操作が難しいかもしれない。(編集部)



マイクスタンドとして使えるUSBメモリー部は可動式で、水平にすることもできる。電池は本体裏のふたを外して交換する。編み目の部分が内蔵スピーカー。



【編集部のイチオシ】

会議や記者会見で録音してみたが、モノラルでもステレオでも驚くほどクリアな音だった。音楽の再生は、ぜひウィンドウズメディアにも対応して欲しい。

オマケの域を脱したムービー機能 スナップショットを動画で楽しもう



DSC-MZ3

おすすめ度 ●●●●○

デジタルカメラ

発売元	三洋電機株式会社
発売日	2002年10月上旬
価格	メーカー希望小売価格58,000円
画素数	195万画素
記録メディア	コンパクトフラッシュ(TYPE I/II) マイクロドライブ
記録ファイルフォーマット	静止画: JPEG形式、TIFF(非圧縮)形式(DCF、DPOF、Exif Ver2.2準拠) 動画クリップ: QuickTime Movie(MOV形式)、音声: WAVE(モノラル)
電源	リチウムイオン電池(DB-L10 同梱) ACアダプター(DSA-47 別売)
電池使用可能時間	液晶ON静止画撮影: 約310枚 / 連続再生: 約210分
参考URL	www.sanyo-dsc.com/dsc/mz3/
問合わせ先	お客さま相談係 電話: 072-870-4184

コンパクトフラッシュ使用、付属電池フル充電、常温時。液晶ON静止画撮影はフラッシュ1/3回発光、20秒毎に1枚撮影した場合。再生は静止画スライドショーの場合。使用条件により異なる。

三洋電機のデジタルカメラ、MZシリーズは「動画デジカメ」として動画機能を充実させてきたが、「ついにここまで来たか!」と思わせる域にまできたのが、この最新機種「DSC-MZ3」だ。「テレビ並みのナチュラルムービー」というキャッチコピーに負けない映像が撮れる。最大解像度は前機種である「MZ2」と同じ640×480ピクセル(VGAサイズ)だが、1秒あたりのコマ数が15から30へと倍増して動きがスムーズになり、画質もテレビでも楽しめるほどに向上した。また、最大撮影時間の制限もなく、記録メディアの限界まで撮影できる。記録フォーマットはQuickTime Movie(mov形式)のため、画質は美しく加工もしやすい。反面、ファイルサイズは大きめで、VGAサイズ、秒30コマで撮影したところ、12分ほどでファイルサイズは1GBに達した。320×240ピクセルのFINEモードでも、テレビに映せるほどの画質は維持できるうえ、ファイルサイズも24分/1GB程度のため、こちらを使う場面のほうが多そうだ。また、静止画撮影の機能も充実している。とくに秒15コマの連写機能は便利だ。すでにほとんどのデジタルカメラに付いている機能だが、その多くは連写撮影のための圧縮をかけている。それに対して、MZ3は1600×1200ピクセル、195万画素の画像をそのままで連写できる。

しかも、連写速度は落ちるものの、露出を-1.8EVから+1.8EVのあいだで0.3EVずつ切り替えながらの連写も可能だ。逆光のような露出設定の難しい場面でも「数打ちちゃあたる」で、素人でも安心して撮影できる。バッテリーは専用のリチウムイオン電池だ。液晶モニターを使った場合、310枚の静止画撮影が可能だ。スナップショット撮影のために一日中持ち歩いているだけでも十分に持つ。動画でも1時間以上の連続撮影が可能だ。記録メディアはコンパクトフラッシュ(CF) TypeIIとマイクロドライブの2種類が使えるが、実際にはCFは使い物にならない。というのも、書き込み速度が撮影に追いつかず、バッファがいっぱいになってしまい撮影できなくなるためだ。いくつかのCFを使って320×240ピクセル、秒30コマの動画を撮影してみたところ、どれも30秒以上の撮影はできず、三洋電機が推奨しているマイクロドライブ「IBM DSCM-11000」(1GB)を利用し、やっと長時間の撮影が可能になった。動画のファイルサイズも大きなものだけに、大容量マイクロドライブが必須だ。このMZ3、実際に「買い」かどうかと言えば、「買い」だ。これまでに挙げた派手な改良部分のほかに、三洋電機のデジタルカメラの特徴である素早い起動と短いシャッター間隔という

地味ながら重要なポイントも健在で、電源を押してから撮影体勢に入るまで2秒とかからない使い勝手のよさ。これで予想実売価格が4万円程度で、「IBM DSCM-11000」(実売価格3万円弱)の購入を含めても7万円弱とコストパフォーマンスも抜群だ。(編集部)



噴水をVGAの秒30コマで動画撮影した。水しぶきなど動きが激しいため、さすがにコマ数でDVとの差を感じる。しかし、ハッキリとコマ落ちを感じるほどではなく、スナップには十分のクオリティーだろ。



【編集部のイチオシ】

これまでデジタルカメラの動画機能には触れたこともなかったような人でも、このクオリティーなら使いたくなるはず。動画でのスナップショットを楽しもう。

アクセスポイントを自動で検出 ウィンドウズの無線LAN機能を便利に

どこでも無線LAN

オススメ度 

無線LAN接続ソフト

発売元	ソースネクスト株式会社
発売日/価格	9月下旬 / 4,980円
対応OS	ウィンドウズ98SE/Me/2000/XP
ハードディスク容量	20Mバイト以上
ブラウザ	インターネットエクスプローラ5.0以上
参考URL	 www.sourcenext.com/products/d_lan/
問い合わせ先	ご購入相談ダイヤル 03-5350-4844




「どこでも無線LAN」は、無線LANの通信エリアに入った際に、自動的にPCをアクセスポイントと通信できる状態にするユーティリティソフトだ。この機能は標準でウィンドウズXPに備わっているが、ウィンドウズ2000などでも可能にするのがこのソフトの大きな特徴だ。

メイン画面には、通信できる状態のアクセスポイントのESS-IDや暗号化の有無、電波の強さと通信チャンネルが表示される。この表示画面から利用したいアクセスポイントを選択して、「接続」ボタンを押すだけでPCは無線LANで通信できる状態になる。なお、暗号化されたネットワークでは、「接続」ボタンを押した後に表示される画面でWEPキーを入力する。

特徴的な機能は「お気に入り」で、よく使うアクセスポイントの接続設定を「お気に入り」として登録できる。こうしておけば接続の都度必要になるWEPキーの入力などを省略できる。また「お気に入り」ではアクセスポイントとの接続方法を、通信エリアに入ったら自動的に接続する「自動」、接続前にダイアログを表示する「問い合わせ」、メイン画面から「接続」ボタンを押す「手動」の3つから選べる。自宅や会社など、頻繁に使うアクセスポイントは「自動」、無線ホットスポットでは「問い合わせ」か「手動」を選ぶといいだろう。

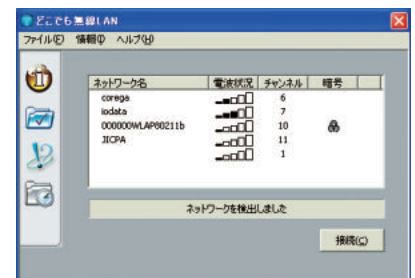
さらに、アクセスポイントの接続と同時にVPNによる接続を自動的に行う「VPN自動起動」を設定できる。VPN接続にはウィンドウズ標準のPPTP接続のほかに他のVPNソフトも指定できる。外出先の無線ホットスポットから、会社のメールサーバーにPPTP接続するときなどに便利な機能だ。

ウィンドウズXPの接続機能より、電波強度や暗号化の状態が一覧できることや、自動的にPPTP接続できることが優れている。カード付属の接続ソフトと比べると、他社製アクセスポイントも自動で検出できる点は非常に便利だ。なぜなら、カード付属の接続ソフトでは、カードメーカー製のアクセスポイントしか検索できないことが多いからだ。

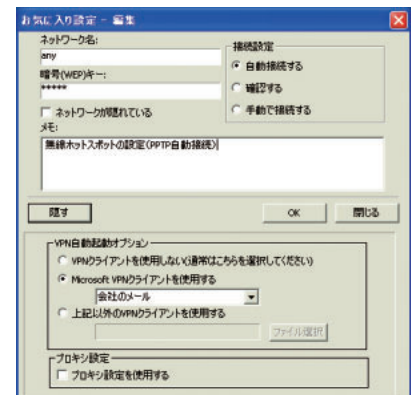
ソースネクストによれば、ウィンドウズXPではすべての無線LANカードに対応しているが、2000やMe、98SEでは利用できない無線LANカードがあるという。対応状況は「どこでも無線LAN」のアップデートによって変わるので、購入前に「どこでも無線LAN」の商品紹介ページ  を参照してほしい。

ウィンドウズXPの接続機能に不満がある人や、カードメーカー製の接続ソフトの使い勝手に納得できない人にお勧めだ。 (編集部)

 www.sourcenext.com/products/d_lan/system2.html



「お気に入り」の詳細設定では、ウィンドウズ標準のVPN接続のほか、その他のVPNクライアントを利用できる。



初めて接続したアクセスポイントでは、今後の接続方法を選択する。



【編集部のイチオシ】

アクセスポイント接続だけでなく、VPN接続まで自動なのは便利。無線LANカードが対応しているならぜひ使いたい。



使い勝手が改善された 定番音声認識ソフトの新バージョン

ViaVoice for Windows, V10 日本語版

おすすめ度 ●●●●○


音声認識ソフト

発売元	日本アイ・ビー・エム株式会社
発売日	9月6日
価格	7,800円 (Standard)、18,000円 (Pro)、22,800円 (Premium)
対応OS	ウィンドウズ98SE/2000 Pro(SP2)/Me/XP(Pro、Premium)
必要メモリ	256MB以上 (ウィンドウズXPの場合)
ハードディスク	600MB以上
参考URL	● www-6.ibm.com/jp/voiceland/
問い合わせ先	ダイヤルIBM 0120-04-1992

音声認識ソフト「ViaVoice」バージョン10は、文書入力に機能を絞った「Standard」、音声コマンドなどに対応した「Pro」、USBマイクをセットにした「Premium」の3つがある。今回のバージョンアップでは、認識エンジンの精度が上がって賢くなった。基本語彙をバージョン9より2万語多い12万語に増やし、くだけた表現の音声認識や「え〜」「あ〜」などの音を自動的に削除するなど、実際の話し方に合わせた認識ができるようになった。それに、文章を入力する「ディクテーション」と音声で操作する「ナビゲーション」の機能の一部が統合され、2つのモードをあまり意識せずに使えるのも新しい。たとえば、ワードで音声入力しているときに、「この行、16ポイント、赤、太字、に変更」と発音するだけで、文字の書式を簡単に換えられる。マウスポインターやカーソルも簡単なコマンドで移動できるので、いったん覚えてしまえば音声だけで編集作業はできる。実際にペンティアム 1GHz、メモリー 256Mバイトのマシンで試してみた。バージョン8あたりで音声認識はかなりよくなってきた印象があるためか、大きく改善されたと感じるところまではいかなかった。しかし、くだけた表現、たとえば「超オススメ」だとか「なのかもしれないね」などの文章が一発で入力できておもしろい。



また、オリンパスのICレコーダー「Voice Trek DM-1」を使った口述筆記にも挑戦した。Voice TrekはDM-1のほかDS-1とDS650がViaVoiceに対応している、本体付属のDSS Player4をインストールすると使えるようになる。マイクを使うのに比べて認識率は劣る(テストでは認識率が5%ほど低い)が、使い方次第では効率的に文章作成ができる。たとえば、出先で打ち合わせの要点などを録音しておき、持ち帰って音声認識するといったやり方だ。ただ、駅のホームで試してみたが、駅のアナウンス音声が入ってしまい認識できない。音声は静かなところで



【編集部 つぶやき】
バージョンアップで認識率、使い勝手ともに向上した。問題はマシンパワーと忍耐が必要な点。辛抱強く使いたい。

録音する必要がありそうだ。さらに、新機能の録音したwavファイルの認識を試みたが、あまりよい結果が得られなかった。録音状態やレベルなどの調整が難しい。それと、ポイントはマイクと口の距離や角度に対してかなり敏感だということだ。ベストセッティングだと90%以上の認識率になるのに、少しマイクがずれるととたんに認識率が悪くなる。この点に注意すればうまく使える。はじめに高い認識率が得られなくても、粘り強く調整を重ね、音声入力に慣れてくれば実用的な認識結果が得られるようになるはずだ。(梅垣まさひろ)

【音声認識テスト】(DM-1で口述後認識)

■ 誤認識した言葉、■ 誤認識により欠落した言葉、■ 原文

バルサー **中性子星** **強力なX線**
フタル酸は修正姿勢とも呼ばれますが、**協力があって苦戦**を出す星として知られています。**自転して**
 その回転はすさまじく1秒間に数10回も**実験室**います。質量が大陽より重いの、直径は数10キロといいますが大変な密度を持った星です。かつては、バルサーが規則正しい信号を出しているために、宇宙のかなたの知的生命体は何らかの目的で信号を送っているのではないかと考えられ、地球外生命体の探査研究で注目を集めました。現在では、その仕組みが解明され知的生命体の存在は難しいと考えられています。

認識正解率 91%

1回目のテストでは誤認識だらけだったため、マイクをやや近付けて録音し直したところ、この結果が得られた。後半、声の緊張感がなくなってくると、認識率が上がって調子がよくなっていく。なお、3回目は逆に悪化してしまって発声がいい加減になったため、認識率は下がった。


テスト環境

マシン：IBM Aptiva E Series 13J(2197-13J)
 OS：ウィンドウズ2000 Professional SP3
 CPU：Pentium 1GHz
 メモリー：256MB
 ViaVoice for Windows V10日本語版 Proを使用
 エンローはクイックエンロールとシステムの概要説明(108)のみ

百科事典を核にコンテンツ増殖中 「知識のプロ」向けの有料情報サイト

Japan Knowledge

オススメ度  百科事典サービス

開発/発売	株式会社ネットアドバンス
リニューアル日/価格	8月28日/個人会員は入会金2,000円、月額費1,500円(税別)専用フォン(Windows版)使用权を含む。法人、教育機関、図書館向けサービスは別料金体系。
決済方法	個人会員はクレジットカード(VISA、Master、JCB、UFJ/旧ミリオ、Diners)
動作環境	IE5.0SP2以上 / Netscape Navigator6.2以上で動作確認済。ムービーコンテンツは、Windows Media PlayerまたはReal Playerが必要。
コンテンツ	日本大百科全書(ニッポニカ)/Multimedia Internet 事典/JKN Who's Who / 現代用語の基礎知識 / 日経BPデジタル大事典 / 大辞泉 / プログレッシブ英和辞典 / プログレッシブ和英辞典 / 亀井肇新語探検2002 / Internet New Words / Encyclopedia of Japan / NNA : アジア&EU国際情報 / 猪瀬直樹 新・日本国の研究 / 田中宇ワールド・クロニクル / 山根一真 IT書齋術百科 / bk1(56万冊の書誌データ) / ニッポニカURLセレクト
問い合わせ先	 www.japanknowledge.com jk_info@netadvance.co.jp



動画、アニメーション、音楽などのマルチメディアコンテンツも膨大。『ニッポニカ』の400に及ぶ項目別年表も利用価値が高い。

百科事典とは、その言語圏で暮らす人々にとつての宝ともいえる存在だ。たとえば『日本大百科全書』で「百科事典」の項を引いてみると、その解説文は3万字を超える膨大なもの。西洋、中国、日本の百科事典の歴史的な変遷に加え、百科事典の構造や利用法、電子化の状況までを網羅し、ちょっとした小冊子ほどのテキスト量がある。ちなみにこの項の執筆者の1人は評論家の紀田順一郎氏。ほかにも「電波天文学」が海部宣男氏(国立天文台台長)、「写真判定」は山口吉久(株式会社プラスミック会長)という具合に第一人者、開祖、重鎮、大物によるテキストが集積されている。かつて『プロジェクトX』(NHK)で『広辞苑』(岩波書店)の編纂作業が放映され感動を呼んだが、紙では27巻に達するこの百科事典を編む仕事にもプロジェクトXXX.....級の膨大な労力が注がれているに違いない。

そしてJapan Knowledge(JKN)は、この小学館の大型百科事典『日本大百科全書』(ニッポニカ)をメインコンテンツとした有料情報サイトである。人物情報や新語情報など定期更新される独自の記事コンテンツに加え、「現代用語の基礎知識」自由国民社をはじめ、講談社や日経BP社など小学館以外の各社が持つコンテンツも提供されている。

これらのコンテンツを「キーワードによる複数コンテンツの全文串刺し検索」、同サイトがいうところの「ワンルック」で利用できる点にまず注目したい。従来ROMメディアとして販売されてきた、あるいはオンラインで提供されてきた辞書コンテンツの利用は「見出し語検索」が主体だった。「前方一致」などで条件の合致する「見出し語」を選び出し、その解説文を表示するというスタイルである。リソースの制約からやむを得なかったとはいえ、「AltaVista」の時代から全文検索に親しむネットユーザーには物足りなかったのではないか。そこに、ようやくひとつの回答が与えられたわけである。確かに全文検索は「Google」もやっているし「namazu」でだってできるのだが、対象となるコンテンツがいずれも定評ある出版物であり、それらを出版社横断的に串刺しできる点が、JKNのサービスの新しさだと言える。


試しに「百科事典」でワンルック検索してみると、ニッポニカの「百科事典」を先頭に290件の記事、エッセイ、URLリンクが提示される。それらはすべて別ウィンドウで開き、デスクトップ上にはさまざまな切り口で見た「百科事典」の解説が、クリックするたび積み上がっていく。サイトそのものを「百科空間」と名付け、サイトのabout usを「JapanKnowledgeの哲学」と示

すほど「志の高い」サイトにふさわしい、優れたユーザビリティを備えている。インターネットエクスプローラ上(マッキントッシュではJEditにも対応)で、選択した言葉を右クリック(マッキントッシュではCTRL+クリック)でワンルックに送るユーティリティー「Onelook Picker」も利用価値が高い。

新しいコトバや事象に対応するため、項目のアップデートも意欲的に行われており、日朝関係がらみのニュース映像や項目解説も積み重なっていくことだろう。また、講談社の『日本人名大辞典』、毎日新聞社の『エコノミスト』が加わる予定だ。

また、ヒットしなかったキーワードを拾い出し、JKNスタッフがその情報に到達するための道筋を示す「ゼロヒットサポート」は、出色のサービスだ。「トムヤンクン トムヤンクンでワンルックしてください」など、きめ細かいサポートが行われており、これだけでも人気コーナーになりそうな気配。

(喜多充成)



【編集部のイチオシ】
百科事典を広げると調べた事柄以外の項目まで読んでしまう人にオススメ。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp